

トヨタ環境活動助成プログラム

TOYOTA Environmental Activities Grant Program



For The Future

TOYOTA MOTOR CORPORATION

トヨタ環境活動助成プログラムは、環境保全のための次の世代を担う人材の育成と環境問題の解決を目指す民間非営利団体などが実施するプロジェクトを助成しています

21世紀が真に豊かな社会として持続的に発展していくためには、環境と人間の活動との調和が不可欠です。

私たちは、次の世代に対して豊かな地球を引き継ぐ責任があることを認識し、国境を越えた人類共通の課題である環境問題の解決に当たっていかなければなりません。

トヨタは世界中のお客様に愛され受け入れられるために、「環境」を経営の最重要課題の一つと位置づけ、多様な技術で環境負荷の低減に取り組むと同時に、資源循環を推進しています。

1999年には、世界初の量産型ハイブリッド車の発売や環境マネジメントシステムの構築、環境情報の積極的な開示などが評価され、国連環境計画(UNEP)から「グローバル500賞^{*1}」を受賞しました。

この受賞を記念し、社会貢献活動の一環として2000年度より民間非営利団体などの環境活動を支援するため助成プログラムを実施しています。

助成対象テーマは「生物多様性」「気候変動」とし、「ものづくりは人づくり」という視点から、環境課題の解決に取り組む人材育成や、実践的に環境課題解決に資するプロジェクトを推進する民間非営利団体の活動を助成します。

なお、この活動は「トヨタ環境チャレンジ2050^{*2} Challenge6 人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ」実現に向けた取り組みの一環でもあります。

*1 グローバル500賞(1987～2003年):国連環境計画(UNEP)が環境の保護・改善に功績のあった個人または団体を表彰する制度。トヨタは世界初の量産型ハイブリッド車の発売などが評価され、1999年に日本企業として初めて受賞しました。

*2 トヨタ環境チャレンジ2050:持続可能な社会の実現に貢献するために、2050年に向けた新たなチャレンジとして2015年10月に発表。本チャレンジは、気候変動、水不足、資源枯渇、生物多様性の劣化といった地球環境問題に対応し、環境負荷を限りなくゼロに近づけるとともに、社会にプラスをもたらすことを目指して、「もっといいクルマ」「もっといいモノづくり」「いい町・いい社会」の3つの領域で成し遂げるべき6つのチャレンジを掲げています。

<http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/environment/challenge2050/>

助成の概要

区分	内容
海外プロジェクト	一件あたり700万円が上限 国内在住団体、または国内在住団体と海外在住団体の協働による海外での活動が対象
国内プロジェクト	一件あたり300万円が上限 国内在住団体による国内での活動が対象
国内小規模プロジェクト	一件あたり100万円が上限 今までに当助成プログラムで助成を受けたことがない国内在住団体による、国内での小規模な活動が対象 ※「国内プロジェクト支援」との重複申請は不可

※助成期間:最長2年

生物多様性 Biodiversity

森林の保全

森林は自然の恵みをもたらすとともに、保水の源として土砂災害の防止や豊穡な田畑を育みます。荒廃した森林を回復するとともに、気候変動防止を推進していくためには、森林・緑化活動を通じた森林資源の保全が欠かせません。

海・川・湿地等の保全

人は川や湖などから水の恵みを受け、湿地を介して自然の恵みはその豊かさを保っています。その恩恵を受け続けるためには、周囲の環境保全とともに、過去の開発などにより失われた河川などの良好な自然環境の再生が必要です。

絶滅危惧種の保護

それぞれの生きものは自然の中で密接につながっているため、ある生きものの絶滅によってバランスが崩れ、自然環境全体に大きな影響を与えかねません。自然環境を守るため、生きものの絶滅回避に向けた取り組みが必要です。

人材の育成 (環境教育)

環境、経済、社会が統合的に向上する持続可能な地域づくりには、さまざまな機会を通じて環境問題について学習し、広範な知識、感性、向上心を育む優良な環境プログラムを通じた人材育成が必要です。

気候変動 Climate change

気候変動対策

気候変動対策は、国境を越えた人類共通のもっとも大きな課題であり、豊かな社会の実現とその持続的な発展のためには、社会の幅広い層と力を合わせた活動が欠かせません。

選考委員長からのメッセージ

皆が生き生き暮らす社会を目指して

トヨタ環境活動助成プログラム選考委員長
中村 桂子氏(JT生命誌研究館館長)



撮影:大西成明

「地球の風景は本当に美しい。僕が宇宙に生れたのならまず地球を訪ねたいと思うでしょう」。米国の宇宙飛行士D.ブラウンの言葉です。地球が美しいのは、水があり、そこに生れた生きものが長い時間をかけて多様化し、みごとな生態系をつくってきたからです。そして私たち人間も、生きものの仲間なのです。

このプログラムは美しい地球を意識しながら日々の暮らしをつくろうと考え、実行している活動を応援するものです。そのような活動こそ、皆(人間もあらゆる生きものも)が生き生きと暮らせる社会につながると思うからです。

生きものであるとは、私たちが長い時間と大きな空間の中でのつながりの中にいるということです。本プログラムに参加してくださる皆さまの活動はこのつながりをより強くする力となるものであり、その成果に期待しています。

限られた助成期間で成果をあげるの、難しいことに違いありません。けれども目標を決めての着実な一歩には意味があります。その挑戦を応援することで私どもも成長し、考えを深めていきたいと思っています。

本プログラムの目的のひとつに、「環境保全のために活動する次世代の育成」があります。明確なコンセプトを持つ活動が、多くの、特に若い人たちの関心呼び、「人が育ち、地域に広がる」ことを期待しています。参加者が経験をともにし、次へと伝えていくことで明るい未来をつくっていただきたいのです。初めて助成を受ける団体のための枠も用意しておりますので、新しい方の参画をお待ちしています。ご一緒に暮らしやすい社会をつくって行きましょう。

海外プロジェクト

ボルネオ島で発見された
絶滅の恐れの高いスマトラサイの保全

公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン(WWF)
インドネシア

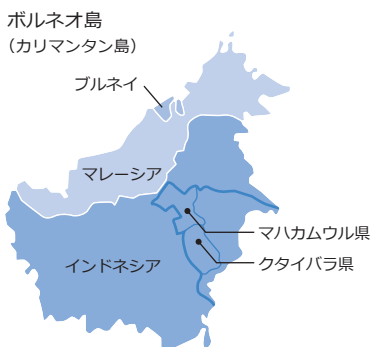
かつて、インドシナ半島などに生息していたと考えられているスマトラサイは、東南アジアの熱帯林の消滅と、角を狙った密猟により減少し、現在は、IUCN(国際自然保護連合)の「レッドリスト」の中で、最も絶滅の恐れが高い「CR(近絶滅種)」に指定されています。

2013年、インドネシア・東カリマンタン州で、この地域では絶滅したと思われていたスマトラサイが発見され、その後の調査でも、近隣の森林で新たに別のサイが発見されました。

本プロジェクトは、発見されたサイを安全な地域に移送する現地政府の計画を支援するため、サイの安全を確保し、サイ保全計画を策定するものであり、また、サイ保全に知見を持ったレンジャーの訓練を実施することで、スマトラサイの中長期的な保全を目指すものです。



3つの目的



1

サイの生態に知見を有した専門のレンジャーの育成



2

サイを安全な聖域に移送するまで密猟などの危機から守るとともに、未発見のサイの確認



3

サイ保全の重要性について、行政関係者の理解を醸成



再発見以来、東カリマンタン州クタイバラ県およびマハカム・ウル県に生息するサイとその保全の在り方はインドネシアのみならず、世界の生物学者やNGOの関心事となりました。プロジェクト実施期間中に聖域への移送は実施されませんでした。レンジャーの育成や捕獲場所の特定など、必要とされる準備の多くを実施することができました。



パーク・タレー沿岸域における絶滅危惧種ヘラシギの保護とバードツーリズムの推進
 一般社団法人 バードライフ・インターナショナル東京 タイ

世界的な絶滅危惧種の鳥類が多数飛来するタイ湾西岸のパーク・タレーは、生物多様性の重要地域として世界的に認識されています。この地域では伝統的な製塩が行われており、塩田は渡り鳥にとっても重要な越冬地や中継地となっています。しかし、管理不足や土地利用の転換などによって、この重要な環境の長期的な存続が危ぶまれています。本プロジェクトでは、荒廃した塩田を水鳥に適した環境に整備し、さらにバードツーリズムの場として整備するとともに地域住民への啓蒙活動を行うことで、渡り鳥の生息環境の改善および地域住民主導のバードツーリズムの導入を図っています。



活動地では、餌生物が大幅に増え、ヘラシギをはじめとする絶滅危惧種が数種類観測されるなど、鳥類の生息地として急速な改善が見られています。また、多くの人々が訪れるエコツーリズムサイトとなることを目的にビジターセンターを新たにオープンさせるなどして、訪問者を受け入れる環境も整えています。



野生チンパンジーが暮らす
ボツソウの森と世界自然遺産ニンバ山
とをむすぶ植林4km

緑の回廊 ギニア

西アフリカ、ギニア共和国ボツソウに暮らすチンパンジーは、人間活動による森林の分断で、他集団からの移入による遺伝的交流がありません。本プロジェクトは、ボツソウの森と世界遺産ニンバ山の森とを隔てるサバンナに植林をし、チンパンジーが往来できる環境を整える絶滅危惧種の保護活動を行っています。



サバンナの強い直射日光を遮り苗木を育てるための東屋の設置や植林作業などには、多くの地元住民が参加して、チンパンジーが好んで食べる果実が実る森を作っています。ドローンを使った環境調査から、植林をした面積以上に森が増えていることが分かりました。カメラトラップを仕掛けた場所では、ボツソウのチンパンジーやニンバ山のサバンナモンキーが繰り返し訪れていることが観察されています。



ボツソウ村の環境教育センターを整備して教育プログラムを実施しました。今までは学校の子どもたちが中心でしたが、利害関係にある村人に対象を広げて、植林活動への協力を呼びかけています。課題は山積みですが、ドローンがもたらすデジタル画像は、ギニアの人々が森の危機的な現状を知る貴重な手段となっています。



Bangladesh 初等教育課程における生物多様性教材の導入へ向けた国民普及啓発活動
 公益社団法人 日本環境教育フォーラム Bangladesh

ユネスコ世界自然遺産に登録されている Bangladesh ・スンドルバンス地域では、住民の自然環境保全に対する理解が不十分なため、マングローブの違法伐採やエビ養殖場の拡大などによる生態系の悪化が懸念されています。そこで、地域主体の持続可能な生物多様性保全達成を目的に、同国82の公立小学校(3・4・5年生)の教師、生徒、保護者を対象とし、同地域の生物多様性保全に必要な学習教材や教育プログラムの開発および普及啓発活動に取り組んできました。



完成した教材は、小学生(3・4・5年生)向け読本3冊をはじめ、スンドルバンスへ入際の規則などを学ぶすごろくゲーム、同地域の自然と人間活動とのつながりについて学ぶカードゲーム、保護者を対象に同地域の自然をテーマとしたDVDなど、どれも楽しみながら学べるものです。現在、開発された教材が全国公立小学校の補助教材として認可されるよう、行政と市民の両レベルから活動を進めています。



**スリランカ「子供の森」計画 多様な豊かな「ふるさと」を守り育てる苗床作りと環境教育
公益財団法人 オイスカ スリランカ**

スリランカ北西部州では、商業伐採や森林の農地化が進み、生物多様性の宝庫であった森林が減少し、自然災害が深刻になっています。このため本プロジェクトでは、地域本来の生物多様性の再生と、自然と調和した豊かな暮らしの再構築を目指して、青少年を中心にした苗木づくりから始まる植林と環境教育の実践指導を行っています。また、その地域に適した活動展開を図るために、指導者育成および地域の協力体制の構築にも取り組んでいます。



植林前の整地作業や穴掘りに地域住民が協力するなど、子どもたちのひたむきな活動が大人たちの心を動かし、地域を巻き込んだ活動へと発展しています。また、指導者向けのセミナーに参加した教師たちが、担当スタッフが訪問しなくても学校での苗木の管理や環境教育活動を実施するなど、自主的な活動の広がりも報告されています。

**「長江こども環境サミット・桜花リレー」の推進と
「生物多様性保全ネットワーク」の構築**

一般社団法人 ときの羽根 中国

2017年11月、一般社団法人ときの羽根は、中国四川省成都市天府新区において「長江流域生物多様性保護活動-第3回こども環境教育サミット」を開催しました。

この活動は、長江6,300km流域の環境保護と日中青少年の交流を目的とし、当日は、上海、湖北、安徽、四川省の小中学生と教師、政府・研究者ら200余名が出席。トヨタの中国現地法人からもボランティアが参加しました。フォーラムでは、各校の環境教育成果の発表や野外視察、公募絵画の展示、日中合作『環境教育教材』（上海市刊）の配付、次回サミット開催地（湖北省）の確定など、地球環境保護意識の向上と流域連携拡充への日本の協力が評価されています。



合作交流プログラムを推進するなか、責務を果たして結果を出すことで信頼できる仲間とグループを成し、上海はじめ長江流域の拠点都市政府とつながりを持つことを心強く思います。日本、中国の各立場、役割、規範を知り、尊重し合う理性が友情を育む大切な要素と感じます。



**ネパール・自然と共存するまちづくりを
担うエコレンジャーの育成**

特定非営利活動法人 ムラのミライ ネパール

ネパールでは、急速に進む都市化や人口増大による水環境の汚染が大きな環境問題となっています。中でも首都カトマンズを流れるバグマティ川は、不法投棄などもあって深刻な水質汚濁に悩まされています。

本プロジェクトは、活動対象地となる住民の中から、環境保全活動の中心的な役割を担い、コミュニティー体となって取り組むために他の住民をファシリテートする人・グループ(エコレンジャー)育成を目的とし、エコレンジャー育成のための研修や研修実施のサポート、実践的な環境保全活動を紹介するリーレットの作成、地域単位での環境保全活動の仕組みづくりをサポートします。エコレンジャーの活躍によって、汚染の主要因とされるゴミが減量され、徐々に生態系や川の機能が回復されていくことを期待するものです。



育成研修への参加や、関心ある住民へのフォローアップを行うことで、39人のエコレンジャーが誕生。彼らは、環境汚染のメカニズムを理解し、解決のために家庭や地域でできる行動の実践的知識と、自分で考え、答えを見つける研修手法を身につけました。プロジェクト終了後には、グループ・地域でゴミ回収場所を設置し、集団で回収したゴミを資源回収業者に販売することで収入を得て、地域の活動に生かすといった内容も提案されています。



国内プロジェクト

どんぐりウォーカーの水源地森づくりと東北支援活動『いのちを守る森の防潮堤づくり』

NPO法人 どんぐりモンゴリ 日本

東北植生の種子を育て、その苗木を東日本大震災の被災地に送るなどして、いのちを守る森づくり活動を支援しているNPO法人「どんぐりモンゴリ」には、育苗にたくさん子どもたちが携わっています。子どもたちが取り組むのは、津波に強いとされる広葉樹のどんぐりなどの種子を、家や学校でポット苗を育てる、いつまでも東北を忘れない活動です。本プロジェクトは、森の役割と生態系を学び、苗木を育て、植樹と育樹をする「どんぐりウォーカー」の育成と、2011年の震災によって失われた緑と生きものが甦るための苗木づくりで、子どもたちができる東北復興支援活動を支援するものです。

どんぐりの育て方

置く場所



- ・外の場合 半日陰
- ・家の中の場合 日の当たる所
- ・肥料は三か月に一度 化成肥料 5粒

旅行などの場合



- ・洗面器など大きめの器に水をたっぷり入れておくと一週間位は大丈夫

水やり



- ・表面が乾いている
- ・重さが軽い
- ・土が流れたりしない様に優しく水をかける

落葉



- どんぐりは、秋に落葉します
- 葉っぱがなくて枝だけだと、枯れてしまったのかと思うかもしれませんが
- そんな時は、曲げてみて折れなければ大丈夫




東日本大震災で被災した宮城県岩沼市沿岸部に、大津波からの浸水を唯一免れた丘があります。人命を守り抜いたこの丘を称えるとともに、復興活動で得られた数々の教訓を守り、育て、活用していこうと「千年希望の丘プロジェクト」が立ち上がり、いのちを守る森の防潮堤の公園にするため、2013～2017年にかけて、毎年植樹祭が開催されてきました。どんぐりモンゴリに参加している子どもたちとその家族も、千年希望の丘の植樹祭や気仙沼市他東北各地に育てた苗木を提供し、植樹活動にも参加。また、ガールスカウト愛知が育てた苗木をガールスカウト宮城の手で植樹されるといった連携も見られ、風評、風化からやさしい風景の復活に、たくさんの力が寄せられました。



ツルが舞うまちを目指して 一愛媛県西予市での生きもの豊かな地域づくり

公益財団法人 日本野鳥の会 日本

20世紀はじめまで日本全国で越冬していたマナヅル、ナベヅルは、狩猟や生息地となる湿地の開発、水田の乾田化などにより急激に減少し、現在は保護対策を行った鹿児島県出水市に世界のナベヅルの約9割、マナヅルの約5割が越冬しています。集中化は、伝染病発生時の大量死のリスクや農業被害の発生といった問題を引き起こすため、出水以外ツルの越冬環境を復元し、分散させる必要があります。本プロジェクトは、日本野鳥の会が、地域住民や自治体、関係団体等と連携して、愛媛県西予市を新たな越冬地として形成する取り組みをサポートするものです。

 渡来したツルの定着促進のため、デコイ(ツルの模型)を購入・設置して効果を検証するとともに、餌資源量の調査、赤外線カメラによるねぐら調査により、生息状況を把握し、今後の保全対策に役立てています。また、小学校でツルや水田の生きものについての学習会や住民、関係団体、市役所などによる組織の総会でツルの保全や生きもの豊かな地域づくりについて普及・提案。新たな関係者とのネットワーク構築や連携も図っています。



自然とともに生きる地域社会の実現

有限責任事業組合 丸山プロジェクト 日本

過疎化に伴う空き家を活用した集落再生の取り組みをサポートしています。周辺部の里山、森林などの景観整備、不耕地などの有効活用は、ネットワークにも恵まれ、植物の植生調査、生きもの生態観察などの興味・関心も高まっています。過疎化地域の再生・活性化については、若手就農家や野菜づくりに関心を寄せる若い都市住民から、「田畑を活かしたい」とする声が寄せられるなど、山間僻地での農業振興のヒントが見つかるとともに、集落活性化のエネルギーとなっています。

**鎮守の森の
生物多様性を脅かす
外来生物アライグマの
基礎研究と対策のための
啓蒙活動**



関西野生生物研究所 日本

外来生物であるアライグマは、国内各地で自然繁殖が確認されており、農作物に対する深刻な被害、固有在来種の捕食をはじめとする他種の繁殖環境への影響が懸念されています。しかし、被害を受けている多くの地域で、アライグマの実態やその対策方法がわかっていないため、全国的な調査とその対策法の確立が急務となっています。本プロジェクトは、特に社寺周辺に生息するアライグマの実態とその被害調査のため、基礎情報のデータベース作成とGIS*による分析を実施。痕跡モニターから、アライグマの今後の拡大傾向が明らかになるなどの成果がでています。こうしたアライグマの特性を多面的に調査した結果・資料は、セミナーやシンポジウムで発表されるとともにホームページでも多くの市民に情報提供され、鎮守の森の生物多様性に被害を与えるアライグマへの有効な対策を提案しています。

*GIS(Geographic Information System):地理情報システム



生物多様性を主流化する

『市民のための生物多様性全国出前講座』プロジェクト

公益財団法人 日本自然保護協会 日本

生物多様性の認知度を高め、企業・自治体・学術・市民団体などの能力向上を目指すための出前講座やワークショップ、現場体験型ツアー実施をサポートしています。出前講座は、日本自然保護協会が主催しているオープンカレッジ「NACS-J市民カレッジ」の手法を用いて実施。華道家を講師にお迎えし、いけばなと自然とのつながりについてお話いただいた京都・法然院での講座は、申し込みが殺到し、再度京都での開催を願う声も多くいただくなど満足度も高く、地域のニーズに合わせた生物多様性の主流化に貢献しています。現在は、動画配信などの講座のオープンアクセスに向けた準備を進めるとともに、これまでの経験と実績を活かした「生物多様性を守るプログラム」づくりを検討しています。

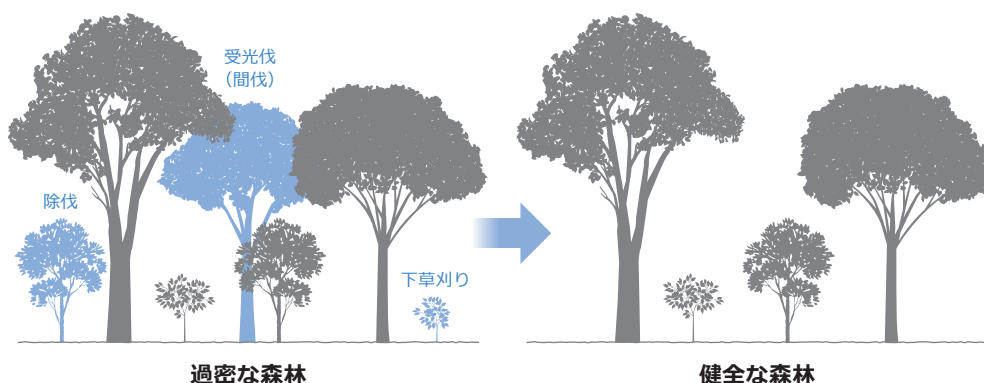
国内小規模プロジェクト

絶滅危惧種選定のギフチョウとヒメヒカゲを中心とした希少チョウ類の保全活動

加古川の里山・ギフチョウ・ネット 日本

春だけ姿を見せることから「春の女神」とも呼ばれているギフチョウは「絶滅危惧Ⅱ類」(環境省)に選定されています。ギフチョウの安定した生息条件として、幼虫の食草であるヒメカンアオイや、成虫の吸蜜植物の保全が必要です。また、サナギで越冬する間の乾燥しにくい自然環境も重要条件で、近くに水の流れる沢や湧き水があるような場所が望まれます。

「絶滅危惧ⅠB類」(環境省)に選定されているヒメヒカゲもまた、草原の荒廃により姿を見ることが少なくなってきました。本プロジェクトは、ギフチョウやヒメヒカゲなどを守るために、産卵数・幼虫の成育状態・成虫の発生状況の調査や、雑木林の下草刈りと枝打ちなど、生息地の豊かな自然環境維持を支援するもので、地元の方たちを中心に保護活動に当たっています。



ギフチョウとカンアオイだけでなく、加古川の生態系全体を考えて、人間を含む、より多くの生きものが共生できる環境を考えて行きたいと思います。

step 1

観察会

step 2

生息調査

step 3

産卵調査・
幼虫調査

step 4

環境整備



トンボの宝庫を守れ!!
ラムサール条約湿地伊豆沼・内沼を舞う
トンボ保全プロジェクト

公益財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 日本

ラムサール条約湿地として登録された宮城県・伊豆沼と内沼は、トンボの宝庫地としてこれまでに40種以上が確認されており、1980年代には、絶滅危惧種のオオセスジイトンボが豊富に生息する水環境として知られていました。近年、生息環境の悪化で本種は激減し、絶滅が危惧されています。本プロジェクトは、生態を調査し、調査結果を踏まえた保全活動と子どもを対象とした「ラムサール条約湿地のトンボを守ろう!」と題した体験イベントを開催することで、子どもに環境保全活動の実体験の場を提供する取り組みをサポートするものです。



愛知目標2020年達成!
グローバル環境プログラムinあきた

一般社団法人 あきた地球環境会議

COP10で採択された愛知目標の個別目標1は、「人々が生物多様性の価値と行動を認識する」とされています。本プロジェクトは、地域の絶滅危惧種の保護活動の必要性を伝え、目指すべき地球の姿実現のための知識を習得してもらうことが、目標達成に向けた取り組みの一步と認識し、秋田県内の小・中・高校の対象生徒さんたちに生物多様性の環境教育プログラムを通じて、主体的に取り組む力を育成するものです。参加した中学生からは、「秋田に大切な動物がいることはほこりだと思し、守っていかなければいけないと思う」「将来、環境関係の仕事をしたいと考えた」などの感想が寄せられています。



重要文化的景観「おぼすて(田毎の月)」
棚田の保全活動

田毎の月棚田保存同好会 日本

長野県千曲市八幡地区(通称:姨捨)の棚田は、「名月の里」として知られた景勝地です。この美しい風景は、地主や地元を中心とした保全団体の活動によって支えられている一方、後継者不在のため、荒廃地となりつつある場所も見受けられます。本プロジェクトは、棚田の風情を蘇らせ、素晴らしい景観を後世に受け継ぐことを目的に、荒廃した棚田の復元と保全活動をサポートします。また、多くの子どもたちやその家族が参加する体験活動や、都市住民との交流を促進するエコツアーなどを実施することで、棚田を訪れる観光客も増え、里山保全への関心度も高まっています。



ミツバチと森をつくる活動
ビーフォレストクラブ

奈良公園や春日山原始林周辺に棲む野生のニホンミツバチは、ポリネーター(送粉者)として太古の昔から豊かな森をつくり森とともに生きてきました。しかし、自然林の激減により、餌場と棲める洞のある木も激減しています。本プロジェクトは、ニホンミツバチと自然環境のつながりを伝えながら、ミツバチの保護育成と増殖環境作りのために、住処となる巣箱を製作して森に設置し、豊かな自然森の再生を目指す取り組みをサポートしています。設置された巣箱に営巣が確認されている箇所も見られ、今後、半径2kmのポリネーション(花粉交配)が期待されています。

2019年度助成対象プロジェクト

分類	テーマ	プロジェクト名称	実施団体	実施地域
海外プロジェクト	生物多様性	持続的環境イノベーション 「KKFC森林群 ローカル知・伝統知による未来創造PJT」	一般社団法人 あきた地球環境会議	タイ
		インドネシア東カリマンタン州における行政と住民が協働した オランウータンの保護活動	公益財団法人 国際緑化推進センター	インドネシア
		インドネシアRSPO認証に向けたヤシ廃棄物での有機肥料生産支援と 農家への教育による環境保全	一般社団法人 コベルニク・ジャパン	インドネシア
		インド・ブッダガヤの農村における児童・女性・行政との協働による 実践的環境教育事業	公益社団法人 日本国際民間協力会	インド
		ミャンマー少数民族地域における八角を中心とした アグロフォレストリーの普及活動	一般社団法人 裸足醫チャンブルー	ミャンマー
		ミャンマー国ウトウ村の"マングローブ"再生および 周辺村への展開と環境普及啓発	ラムサールセンター	ミャンマー
		パタゴニアプログラム「固有野生生物保護のための生息地の復元」	Aves Argentinas	アルゼンチン
	気候変動	カンボジア王国世界文化遺産プレアピヒア・エコビレッジ地区 美しい森づくり活動	特定非営利活動法人 アジアの誇り・プレアピヒア日本協会	カンボジア
		ウズベキスタンにおけるサクサウル植林とニクジュヨウ栽培による 砂漠緑化プロジェクト	公益財団法人 オイスカ	ウズベキスタン
		ブドゥダ県 脆弱地域の農民、小学生が草の根レベルで実践する 土壌保全とレジリエンス強化事業	特定非営利活動法人 道普請人	ウガンダ
		ブルキナファソ・バム県における植栽による 地域の住民生活の持続可能性への支援と啓発	特定非営利活動法人 緑のサヘル	ブルキナファソ
		都市公園の樹木調査と名札掛け事業・観察会を通して 生物多様性等環境学習支援事業	特定非営利活動法人 すいた環境学習協会	日本
		四国における特別天然記念物コウノトリの野生復帰活動	特定非営利活動法人 とくしまコウノトリ基金	
		どんぐりウォーカーの水源地、モリコロパーク、3.11被災地での どんぐりの森づくり	特定非営利活動法人 どんぐりモンゴリ	
海ゴミと空き家、地域課題を教育資源に! →環境教育プログラム拡大プロジェクト→	誇れるふるさとネットワーク			
ハンザキの生きる清流を繋ぐ里山水辺の川づくりによる 日本最大のオオサンショウウオ生息地再生	真庭遺産研究会			
サシバの繁殖再開を目標とした三浦半島の谷戸田再生活動	NPO法人 三浦半島生物多様性保全			
海のプラスチック問題、瀬戸内海全域での漂着ゴミ調査。 無人島佐島での漂着ゴミ拾い	一般社団法人 E.Cオーシャンズ			
気候変動	地産地消エネルギーで二酸化炭素を減らし 災害に負けない子どもを育てる	公益財団法人 日本環境協会	日本	
	二ホンザルはどこに? 妙高笹ヶ峰に近年進出した二ホンザルの暮らしを追う	公益財団法人 日本モンキーセンター		
国内小規模プロジェクト	生物多様性	コガネグモの保全とクモ合戦大会を後世に伝承普及を図る	始良市加治木町クモ合戦保存会	日本
		すぐに見えない里山の自然を体験して感じて学んで語ろう	特定非営利活動法人 アシストバルオオイト	
		「環境教育×アウトドア」のコミュニケーションツールの制作を通じた 「参加型環境保全観光」	淡路島ロングトレイル協会 設立推進委員会	
		希少種の育成環境保全&さくら公園里山づくりプロジェクト	ながの環境パートナーシップ会議	
		木津川におけるイタセンバラの復活を目指して	特定非営利活動法人 やましる里山の会	
徳島県美波町での森林保全及び木材の活用を通じた 次世代の人材育成プロジェクト	特定非営利活動法人 TOKUSHIMA雪花菜工房			

公募から選考までのスケジュール

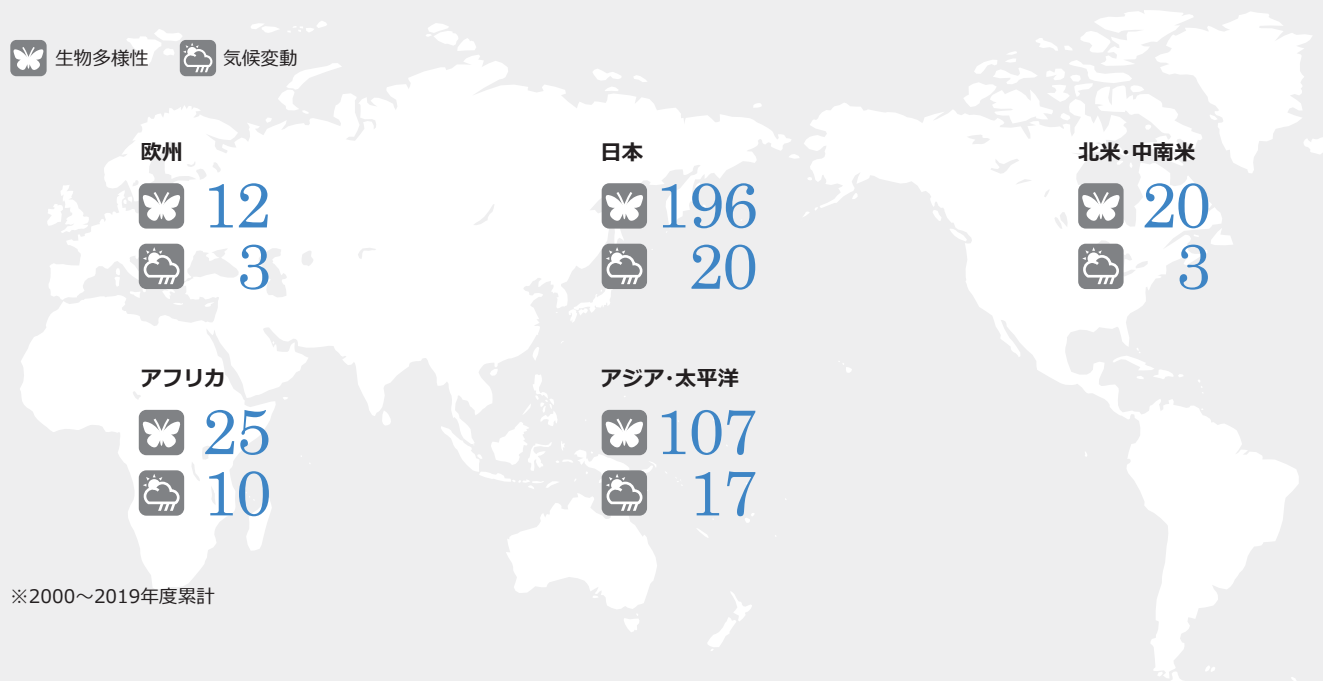
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
募集			一次選考	結果通知 本選考申請書 受付 (国内小規模 プロジェクトは 提出不要)	本選考		助成対象 プロジェクト通知 本選考結果発表	助成決定証授与式

- 応募方法:申請書は原則、電子ファイルでのみ受付
- 助成対象:2017年以降、同じ団体が3年度連続して助成を受けた場合その後の1年間は申請できません(活動期間は3年以上継続しても可)
- プログラムの選考は、①実効性 ②効率性 ③信頼性 ④協働性 ⑤自立性 ⑥発展性(継続案件)に基づいて審査します

※ご提出いただいた申請書・添付資料などは返却いたしません。また、採択プログラムについては、申請書・添付資料を公表する場合があります

これまでの助成実績(世界57の国と地域で累計413件を支援)

 生物多様性  気候変動



※2000~2019年度累計



トヨタ環境活動助成プログラム
TOYOTA Environmental Activities Grant Program

[加工製本]
トヨタグループは、障がいのある方により多くの働く機会を提供するためにトヨタが設立した重度障がい者多数雇用事業所で、特例子会社に認定されています。トヨタ自動車の中で行っていた社内印刷、社内郵便物の受発信などの業務を受託業務として行っています。本レポートの印刷・製本はトヨタグループが行いました。

トヨタ自動車株式会社

〒112-8701 東京都文京区後楽1-4-18
環境部内「トヨタ環境活動助成プログラム」事務局
e-mail: tmc-ecogrant@g500.jp
<https://global.toyota.jp/sustainability/esg/challenge2050/challenge6/ecogrant/>